

黄1組「あかずきん」

担任：西浦 あいり

ピアノ：片山 万季

むかしむかし、森の近くに赤いずきんをかぶった女の子が住んでいました。ある日、赤ずきんはお母さんに頼まれ、病気のおばあさんのお見舞いに行くことになりました。森の中を歩いていると、オオカミに出会い、行き先を伝えてしまいます。赤ずきんが来ることを知ったオオカミは、あることを思いつき、先におばあさんの家へと向かうのでした。

身振りやごっこあそびを通して、赤ずきんもオオカミも大好きになった子どもたち。赤ずきんたちを食べてしまったオオカミの動きや、ハサミで切ったり縫ったりなど、日ごろ経験したことの無い表現をととても楽しんでいました。元気いっぱいの子どもたちが一生懸命表現します。ぜひご注目ください。

黄2組「ぶんぶくちやがま」

担任：及川 璃梨加

ピアノ：片山 万季

ある日、古道具屋さんは家に帰る途中に一つの茶釜を発見。いつもお世話になっている和尚さんに届けにいくと大喜び！しかし、その茶釜の正体はたぬきだったのです。どうして茶釜に化けたのか、そして、古道具屋さんとはたぬきが思いついた"みんなが喜んでくれるいい方法"とは一体何だったのでしょうか？

茶釜からたぬきが飛び出す場面の身振りあそびは、何度やっても大盛り上がり。「いつ飛び出してくるのかな？」とハラハラする気持ちを楽しんでいました。また「お腹空いちゃったのかい？」と古道具屋さんの優しさを表現したり「いろいろな向きからこすらないと！」と小僧さんの無邪気さを表したりと役のイメージを子どもたちと一緒に深めてきました。本番でもいつ茶釜から飛び出すのかワクワクしながらぜひご覧ください。



黄3組 「3びきのこぶた」

担任：松本 恭佳

ピアノ：片山 万季

なるなる森では3匹のこぶたが、わら、木、レンガと工夫をしながら自分のおうちを作り、仲良く暮らしていました。ある日、お腹を空かせたおおかみが「フフフのフー！」とこぶたたちの家に息を吹きかけ大変なことに！？大慌てで逃げるこぶたたちはおおかみに勝つためにある作戦を立てました。一体、どうするのでしょうか？

おおかみに勝つことのできる強いこぶたとはどんな動きなのか…あそびを通して、友だちとどんな表情をしているのかを考えたり話し合ったりして楽しんでいました。また、登場人物の特徴的な姿に注目し「ぶたの足はチョコミみたいな形！」と細かなところまで表現していました。一人ひとりが物語の世界に入り、役になりきります。個性豊かで可愛らしい子どもたちの姿をぜひご覧ください。

赤1組「雪の女王」

担任：杉山 藍

ある町に、仲良しのカイとゲルダがいました。そこへ悪魔の世界から魔法の鏡の欠片が落ちてきて、カイは冷たい心になってしまいます。雪の女王に連れ去られたカイを追い、大切な友だちを探すため、ゲルダはたった一人で長い旅に出ました。さまざまな出会いや試練、そして行き着く先は雪の女王が住む氷の城。果たしてゲルダのカイを思う気持ちは届き、温かい心を取り戻せるのでしょうか…。

「ゲルダは泣きそうになりながら探しているんじゃないかな?」「たしかに!大切な友だちがいなくなっちゃったら悲しいよね。」と子どもたちは登場人物の感情について話し合いながら物語の理解を深めていました。一人ひとりが考えた冷たい心・温かい心の表現の違いに注目してご覧ください。



赤2組 「ピーターパン」

担任：野間 彩加

ある夜、おとぎ話が大好きなウェンディと弟たちのもとにピーターパンとティンカーベルがやってきました。妖精の粉を振りかけられたウェンディたちは、空を飛んでネバーランドへ出発!迷子の子どもたちと出会い楽しい時を過ごします。しかし突然、ピーターパンに恨みを持つフック船長に捕らわれてしまうのです…。

「ネバーランドに行ってみたい!」とわくわくしていた子どもたち。粘土でオリジナルの島を作ると「大好きなものがたくさんある場所にしたよ!」と思い思いの世界を表現していました。また、「空はどうやって飛ぶのかな?」と話し合いを重ねると、手をひらひらさせて軽やかに飛んだり、大きく腕を広げて元気いっぱい飛びながら役ごとの表現を深めてきました。赤2組のみんなと一緒に空の旅をお楽しみください。

赤3組 「シンデレラ」

担任：角田 波奈

シンデレラは心の優しい女の子。お母さんに家の仕事を言いつけられても、毎日前向きに過ごしていました。そんなある日、お城から舞踏会の招待状が届きます。舞踏会へ行きたいと願うシンデレラですが、お母さんたちは許してくれません。悲しむシンデレラのもとへある人物が現れます。シンデレラは舞踏会へ行くことができるのでしょうか…。

馴染みのある物語ということもあり、子どもたちはすぐに親しみをもってお話を楽しんでいました。特に12時の鐘の場面がお気に入り、王子様とのやりとりや靴が脱げてしまうところを試行錯誤しながら楽しんでいました。「ドレスを着ていたらどんなふうに行くのかな?」「ネズミはみんなと同じように歩くのかな?」と話し合いを通して深めた、さまざまな表現をぜひお楽しみください。

青1組 「織田信長」

担任：鬼頭 萌

戦国の世を駆け抜けた男、織田信長。常識に捉われない考えと強い意志で天下を目指し、戦と知恵の力で時代を動かしていきました。桶狭間の戦い、天下布武、楽市楽座。その歩みの陰で、理想が高くなるほど人々の心はすれ違いきます。信じあつたはずの家臣の心は揺れ、迫りくる運命の夜。夢と現実がぶつかり合う戦国の物語です。

毎日の信長クイズを通して、初めて聞く歴史上の人物を楽しく知ることから始まりました。知れば知るほど「信長ってすごい人なんだ！」と織田信長を尊敬し、昔と今の暮らしの違いにも興味を持ち、戦国時代にタイムスリップしたかのように役になりきって表現することを楽しみながら作り上げました。信長の夢と、この時代を生きた人々の運命を、子どもたちの熱い表現でお届けします。

青2組 「源義経」

担任：鈴木 結希菜

1158年、牛若丸という男の子が生まれました。牛若丸は母親と暮らしていましたが、7歳になると鞍馬山に入れられ、毎日、寺でお経を読んだり、掃除をしたり、時々抜け出して山を駆け回っては、武芸の稽古をしていました。ある日、共に修行をしていた山伏に源氏の御曹司であると告げられ、元服をして名を源義経に改めます。修行を積む中で、かけがえのない仲間に出会い、義経の人生はどのように動いていくのでしょうか。

劇あそびの中で強く芯の通った源義経をはじめ、武蔵坊弁慶や伊勢三郎など、個性豊かな歴史上の人物にどんどん引き込まれていました。「この時はどんな気持ちだったのかな」「自分だったら…」とクラスで話し合いをたくさん行い、心情理解が深まったことで、思いを込めて一役一役を丁寧に演じています。青2組、いざ参る！

青3組 「ごんぎつね」

担任：鳥越 雪乃

いたずら好きな子ぎつねのごんは、ある日、村に住む兵十が大切にしていたうなぎを盗んでしまいます。それは、母親のために用意していた大事なものでした。後になって兵十のお母さんが亡くなったことを知ったごんは、自分のしたことを深く後悔し、栗や魚をこっそり届けて償おうとします。しかし、ごんの思いは兵十に伝わらないまま、悲しい出来事が起こってしまいます。

この物語を通して、相手を思いやる気持ちや、その思いを言葉や行動で伝えることの大切さを感じていただけたらと思います。子どもたちは、ごんや兵十の心の動きを想像しながら、悲しさや優しさ、すれ違ってしまふ気持ちを、表情や身体の動きで丁寧に表現しています。ひとり一人が物語の世界に入り込み、役になりきって演じる姿にも、ぜひ注目してご覧ください。



劇あそび発表



鳴海ヶ丘幼稚園

とき：令和8年2月21日（土）

午後12：00～15：30

1部：黄1組・赤3組・青3組

2部：黄3組・赤1組・青1組

3部：黄2組・赤2組・青2組



ところ：おおぶ文化交流の杜 こもればホール

幼児劇へのご案内

絵本や物語の世界に出会うと、幼児は身振りやごっこをして、物やことば、相手の気持ちを学んでいきます。そして、物語の役になることで心を動かし、あそびから生まれる会話ややり取りの中で、体から湧き上がる表現、生きたことばを獲得していきます。

本園の劇あそびは、物語を通してイメージした自分の動きやことばを「身ぶり」と「せりふ」で演ずるものです。発表は場面ごとに表現を工夫した「ごっこあそび」の作品化です。

役を交代し合い、子どもたちで各場面をつくり、教師は、「ピアノ音楽やナレーション」を受け持つ、本園独自の情感豊かな物語劇です。1年間の教育の集大成としての劇あそび発表に、教師がどこまでお子様のことばや表現を引き出せるか、仲間づくりができるか、豊かな作品に協力して仕上げられるか、お子様の育ちとともにご鑑賞ください。

なお鑑賞にあたって、クラスごとに劇のあらすじと担任からのメッセージを掲載いたしました。仲間づくり、舞台構成、演出などの視点からも発表会をお楽しみください。

絵本を楽しめる幼児期は、劇あそびを通して本好きとなり、未来の学習の礎となります。

令和8年2月 岡田勝彦